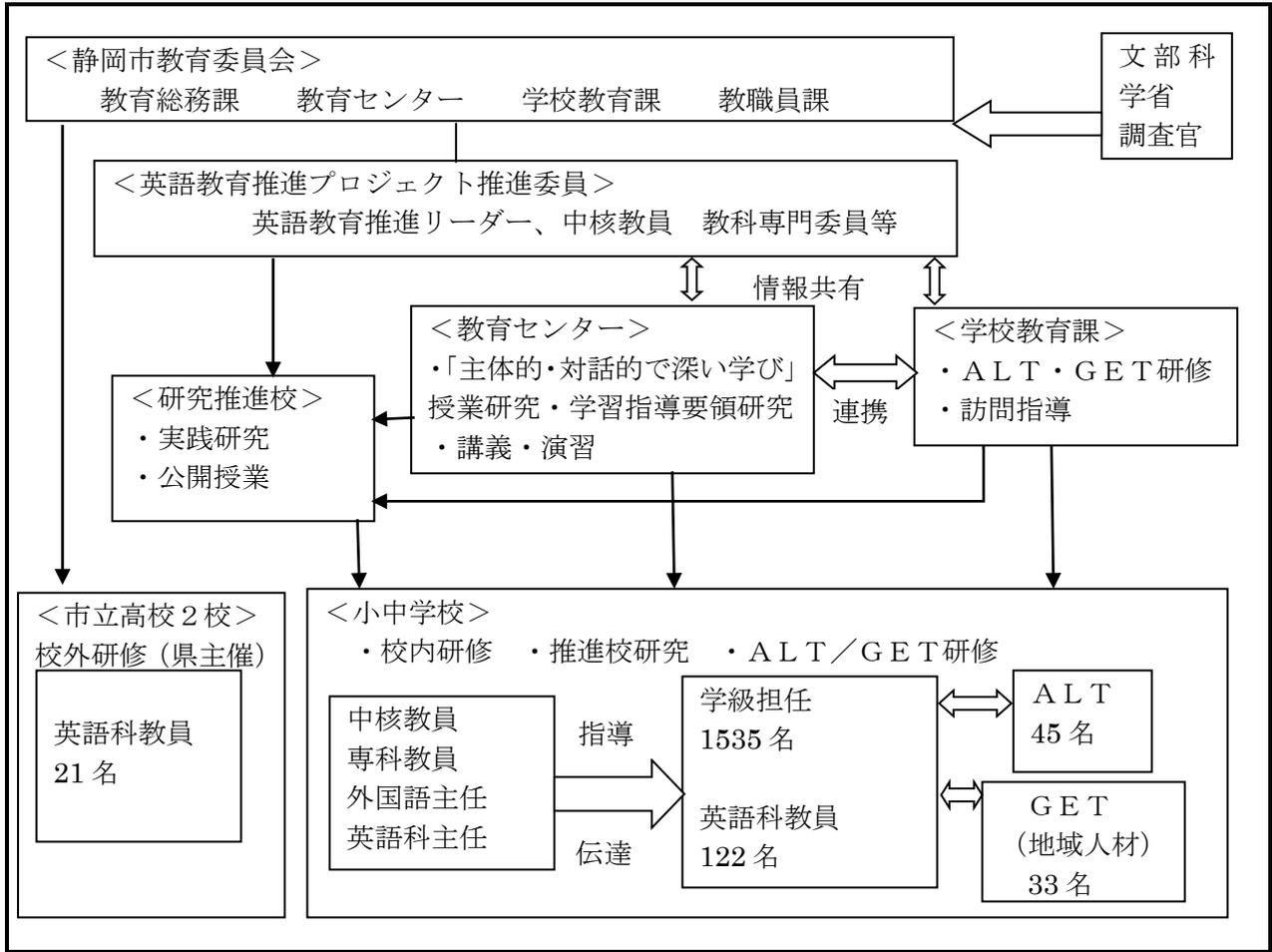


静岡市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

(2020年度達成値は本市独自調査(R2.12月)によるものである)

① 「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況 (設定・公表及び達成状況の把握等の状況)

中学校	2020年度 (達成値) 設定	83.7%	公表	11.6%	達成状況の把握	27.9%
	2021年度 (目標値) 設定	100%	公表	50.0%	達成状況の把握	100%
高等学校	2020年度 (達成値) 設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	100%
	2021年度 (目標値) 設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	100%

【中学校】新学習指導要領及びCEFRに準拠したCAN-DOリストの活用に向け、市が定める様式を改め、例を示すとともに、学校ごとの作成43校(全校)を目指すとともに、生徒との共有を働きかけ、公表目標値を21校に設定した。また、公表や達成状況の把握についてはその方法も含め、周知徹底を図る。各種研修会では、パフォーマンステストや定期テスト等の適切な作成方法や実施方法など学習到達達成状況を把握する具体的な方法についても周知する。

【高等学校】各校において、「何ができるようになるか」という形で学習到達目標を設定の上、学習評価に反映し、フィードバックに活用している。「CAN-DO リスト」は引き続き各校のホームページ、シラバス等で生徒及び保護者に周知していく。PDCAサイクルはほぼ構築できているので、今後はサイクルを加速させ、「次年度の取組につなげる」から「次学期の取組につなげる」ことを検討する。

②授業における、生徒の英語による言語活動の占める割合

2020年度（達成値）	中学校	78.9%	高等学校	90.9%
2021年度（目標値）	中学校	90.0%	高等学校	95.0%

【中学校】「言語活動」とは「生徒が自分の思いや考えを伝え合う活動」である。新型コロナウイルスの影響から、言語活動そのものの設定が難しくなっていることが考えられるが、授業の半分以上の時間、言語活動を行っている割合は全体で2.1%伸びている。英語教育推進リーダーによる研修を通し、受講者一人一人が授業改善の意識を高め、英語による言語活動を通して4技能5領域を指導することが広がってきている。学校訪問や経年研修においても場面、目的、状況を意識した課題設定で言語活動の必然性を意識した授業づくりを求めていく。

【高等学校】授業の半分以上を言語活動が占める割合は前年度比で3.1ポイント下降したものの、依然として高い比率を維持している。授業で言語活動に取り組んでいる学校の生徒ほど、「英語の勉強が好き」という生徒が多いという調査結果がある。教員が具体的な課題を設定し、必要に応じて教科横断的なカリキュラムマネジメントを行いつつ、生徒のコミュニケーション活動を充実させることを推奨する。

③「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

		スピーキングテスト	ライティングテスト
中学校	2020年度（達成値）	2.8回	2.8回
	2021年度（目標値）	4回	4回
高等学校			
現行課程	スピーキングテスト		
		コミュニケーション英語Ⅰ	3.5回
		コミュニケーション英語Ⅱ	3.5回
		コミュニケーション英語Ⅲ	0.5回
		英語表現Ⅰ	0回
		英語表現Ⅱ	0回
	ライティングテスト		
		コミュニケーション英語Ⅰ	1.5回
		コミュニケーション英語Ⅱ	5.5回
		コミュニケーション英語Ⅲ	2.5回
		英語表現Ⅰ	6回
		英語表現Ⅱ	8回
新課程	スピーキングテスト		
		英語コミュニケーションⅠ	5回
		英語コミュニケーションⅡ	5回
		英語コミュニケーションⅢ	5回
		論理・表現Ⅰ	5回
		論理・表現Ⅱ	5回
		論理・表現Ⅲ	5回
	ライティングテスト		
		英語コミュニケーションⅠ	5回
		英語コミュニケーションⅡ	5回

英語コミュニケーションⅢ	5回
論理・表現Ⅰ	5回
論理・表現Ⅱ	5回
論理・表現Ⅲ	5回

【中学校】半期に2回程度は、それぞれのパフォーマンステストを実施するよう求める。スピーキングテストについては、ALTを十分に活用し、生徒が英語で自分の思いや考えを伝えることができる場面を設定したい。評価については、評価規準（ルーブリック）を示し、生徒が自らの学習改善につながるよう努める。ライティングについては、全国学力学習状況調査の問題を参考に、定期テスト等の改善を図る。学校訪問や研修会では、より適切なパフォーマンステストの作成や実施方法など具体的な方法について周知していく。

【高等学校】科目によって頻度にばらつきはあるが、平均するとスピーキングテストを1.5回（前年度3.1回）、ライティングテストを4.7回（前年度5.3回）実施している。臨時休業により授業時数が制限され、スピーキングテストを割愛せざるを得なかった状況は想像に難くない。他方、ライティングテストは授業時間数によらず、授業の一部として確立していることが伺える。GIGAスクール構想によるICT環境の整備に伴い、パフォーマンステストの評価に当たっても、ICTの積極的かつ効果的な活用が期待される。

④授業における、英語担当教員の英語使用状況

1 単位時間のうち、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

2020年度（達成値）	中学校	80.4%	高等学校	52.7%
2021年度（目標値）	中学校	90.0%	高等学校	100.0%

【中学校】「授業は英語で行う」ことが基本であるという教員の意識改革が進み、発話の50%以上の割合は増加傾向にある。指導主事による学校訪問では、授業を実際のコミュニケーションの場面とする指導を通して生徒の英語力向上を図った取組について紹介していく。また、英語教育推進リーダーによる講義やモデル授業の公開等を行い、言語活動を通して指導する方法について理解を深めていく。

【高等学校】前年比13.3ポイントの下降である。普通科においては、全国的な傾向と同様、学年が上がるにつれて教員による英語使用の割合は下がっている。他方、専門学科では学年による差がほとんど見られない上に、普通科のそれを10ポイント以上も上回っている。今回の下降の原因が、臨時休業中の学習の遅れを取り戻すためのやむを得ない措置であったのかどうかは目下確認中である。いずれにせよ、教員が授業で英語を使うほど、生徒の英語による産出が多くなることは確かである。今後も学校と協議して有効な対策を講じていく。

⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合

2020年度（達成値）	中学校	39.9%	高等学校	100.0%
2021年度（目標値）	中学校	40.0%	高等学校	100.0%

【中学校】海外派遣研修員及び教職大学院への派遣教員（計2～3名）に対して、校長は外部検定制度を活用し、英語検定等の資格試験の受験を勧奨する。新規採用者のうち1名は有資格者を採用する。（今後は10年目までの若手教員を中心に、悉皆での資格試験の受験を検討する。）

【高等学校】市立2校の英語担当教員21人全員が、CEFR B2（英検準1級）レベル相当以上のスコア等を取得している。無理なくネイティブスピーカーと通常の対話ができる日本人教員は、生徒にとって最も身近なロールモデルである。個々の教員の資質・能力の高さは本市教員の強

みである。新学習指導要領開始後も、それらが学校現場で十分に発揮できるよう、支援を継続する。

⑥求められる英語力を有する生徒の割合（中学校第3学年、高等学校第3学年）

2020年度（達成値）	中学校	39.7%	高等学校	90.3%
2021年度（目標値）	中学校	50.0%	高等学校	95.0%

【中学校】生徒の英語学習の意欲向上と学習成果の把握を目的とし、各学校に英語検定準会場（団体）受験の利点や英語検定の有用性について積極的に情報提供する。また、授業ではCEFRに準拠したCAN-DOリストに基づく「指導と評価の一体化」を図り、教員が生徒の英語力を正しく評価し、CEFR A1レベル相当数について把握できるようにする。

【高等学校】CEFR A2レベルの英語力を有する生徒の割合は、昨年度比で8.3ポイント上昇した。市立の2校では数年前から学力調査の目的でGTECを全員受検としている。生徒は、学んだ語彙や文法の知識を、「聞く・読む・話す・書く」の各領域で活用することが習慣となりつつあり、英検などの外部試験にも積極的に挑戦している。生徒が自律した学習者として生涯にわたって学び続けることができるよう、教員による励行を促す。

新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

2020年度（現状値）	英語資格所有の新規採用者数（小学校）	計13名	17.5%
2021年度（現状値）	英語資格所有の新規採用者数（小学校）	計12名	15.0%
2022年度（目標値）	英語資格所有の新規採用者数（小学校）	計25名	31.3%

小学校外国語教育の早期化、教科化に伴い、一定の英語力を有し質の高い英語教育を行える人材を確保するために、教員採用試験において積極的に加点措置等を行う。静岡大学及び常葉大学の学生を対象とした新年度採用説明会では、静岡市が求める教師像の具体について周知する。教員養成においては2025年度までに、2020年度から毎年5名増で有資格者を確保し、小学校教諭新規採用者の50%以上（40名）が国の示す一定の英語力を有するという目標を達成する。

（加点措置の例：令和3年度採用試験時点）

- ① 中学校（又は高等学校）英語の免許状を有する者
- ② CEFR B2相当以上の英語力を有する者

【小学校専科（英語）】の積極的な配置について

2020年度（現状値）	小学校専科教員	小学校の配置21名、中学校の配置4名	計25名
2021年度（目標値）	小学校専科教員	小学校の配置20名、中学校の配置5名	計25名
（2019年度は、小学校の配置13名、中学校の配置4名 計17名）			

新学習指導要領で目指す「小学校外国語科」の授業実践のために、各中学校区に推進リーダーや中核教員、中学校英語科教員等の優秀な人材を専科教員として配置する。最大3校を兼務し、中学校区で同一の指導がなされるようにする。

専科教員が配置された学校のうち、小中一貫教育スポット校や英語力向上に力を入れている学校は、公開授業等を通して、全市に優れた実践を広める。

また、専科教員が配置された学校の学級担任は、専科教員が実施する授業を参観するなど、あらゆる機会を捉え、小学校外国語教育についての見識を深めるとともに、専科教員からの指導や助言をもとに、自らの授業実践に向けて準備をする。

(3) 研修の体系と内容の具体

教員のニーズに合わせ、質の高い教員育成を目指し、以下のように各種研修会を設定する。

小学校外国語指導に不安のある教員や指導経験の浅い初任者等については、(1)、(2)の研修会への参加を促し、初歩的なレベルから楽しく小学校外国語教育について学び、英語力及び指導力の向上を図る。

指導にある程度の自信のある教員については、(3)、(4)の「授業づくり研修」において、文部科学省教科調査官等から最新の情報を入手し指導助言を得ることで、自らの授業改善に取り組むことが期待される。

小学校や中学校において外国語教育で活躍する教員に対しては、(5)、(6)の研修に参加し、公開授業等を通して、静岡市が目指す外国語授業の具体を全市に広めることが望まれる。

さらに、これからの静岡市外国語教育を推進する優秀な人材には、(7)、(8)、(9)の海外研修の機会を与え、英語力・指導力の向上はもちろん、国際的な視野を広げ、「グローバル人材」のモデルとなることが期待される。

また、全ての教員を対象として、(10)、(11)の研修を設定し、個々の指導力の向上と各校の研修の成果を全市に広めることを目指す。(12)では、子どもたちのコミュニケーション力向上のために一人一台端末を外国語活動、小学校外国語科、中学校外国語科の授業でどのように有効活用していくかを研修し、小中教員の指導力の向上を図る。

外部人材(ALT・GET)については、(13)、(14)、(15)の研修への参加を通して、指導力のさらなる向上を図り、学級担任や英語科教員の支援及び児童生徒の有効なコミュニケーションの対象となることが期待される。

(1) 研修会名 イングリッシュセミナー(教員のための英会話教室)【教育センター・学校教育課】

- ①目的 新学習指導要領全面実施における小学校中学年への外国語活動の導入と高学年の教科化に対応できるよう、小学校教員が英会話力を身につける。
- ②対象者 小学校教員
- ③受講予定者 50名
- ④開催回数 年9回 3回×3期
- ⑤内容 ALTをファシリテーターとした小学校外国語教材に関するテーマトーク(語彙、表現習得のためのアクティビティ、Small Talkを含む)
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート

(2) 研修会名 外国語活動・小学校外国語科の授業についての説明会 【教育センター】

- ①目的 新学習指導要領における小学校外国語の授業の目標や活動について講義・演習を行い、中学校英語科の授業との違いを知る。
- ②対象者 小学校初任者・小学校教員を目指す教師塾生または大学生
- ③受講予定者 200名
- ④開催回数 2回
- ⑤内容 新学習指導要領における小学校外国語の授業についての講義
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート

(3) 研修会名 外国語活動・小学校外国語科の授業づくり 【教育センター】

- ①目的 小学校外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」の具体の姿を求め、移行期間中の外国語活動・外国語科の授業の在り方について、講義と演習を通して理解を深め、日々の授業改善に資する。
- ②対象者 小学校教員・中学校教員・高等学校教員・ALT・GET
- ③受講予定者 120名
- ④期 日 令和3年9月
- ⑤内 容 文部科学省初等中等教育局視学官 直山木綿子氏による講義演習「全面実施を開始した小学校外国語活動・外国語科の指導、評価のポイント」

⑥研修の評価方法	参加者によるアンケート
(4) 研修会名	中学校外国語科の授業づくり 【教育センター】
①目的	中学校外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」の具体の姿を求め、小中の接続を意識した授業の在り方について、講義と演習を通して理解を深め、日々の授業改善に資する。
②対象者	小学校教員・中学校教員・高等学校教員・A L T
③受講予定者	120名
④期 日	令和3年7月
⑤内 容	国立教育政策研究所教育課程調査官 山田誠志氏による講義演習 「新学習指導要領における指導と評価の一体化」
⑥研修の評価方法	参加者によるアンケート
(5) 研修会名	英語教育 I C T活用委員会、英語教育 I C T活用研修（公開授業） 【教育センター】
①目的	子どもたちの英語でのコミュニケーション力の向上のために一人一台端末を効果的に活用した中学校外国語科の在り方について学ぶ。また、指導計画及び教材等を作成し、授業研究を行うことで英語指導力の向上、校内外への情報発信を図る
②対象者	小学校教員・中学校教員・高等学校教員
③受講予定者	45名
④開催回数	年間5回＋公開授業1回
⑤内 容	講義・演習、授業案検討、公開授業（中学校）、実践事例報告
⑥研修の評価方法	参加者によるアンケート
(6) 研修会名	小学校外国語専科教員研修 【学校教育課・教育センター】
①目的	学習指導要領で目指す小学校外国語教育の在り方について理解を深め、専科教員が自らの役割を自覚し、授業の充実と外国語授業の環境作りに資する。
②対象者	小学校専科教員
③受講予定者	25名
④開催回数	5月 11月 年2回
⑤内 容	講義・演習
⑥研修の評価方法	参加者によるアンケート
(7) 研修会名	短期海外派遣事業 【教育センター】
①目的	多文化共生教育のための国際交流、姉妹都市交流等を行い、青少年の健全育成に寄与する。
②対象者	小学校教員・中学校教員
③受講予定者	4名
④実施期間	令和3年7月下旬～令和3年8月中旬
⑤内 容	インターナショナルハウスバンクーバーでの語学研修、ホームステイ
⑥研修の評価方法	アンケート、外部検定受験
(8) 研修会名	シェルビービル派遣研修 【教育センター】（令和3年度は実施しない）
①目的	姉妹都市であるシェルビービル市（米国）に教員を長期派遣し、英会話能力の向上を図るとともに、国際的視野を身に付けさせ教員の資質向上を図る。また、現地の社会との交流を図り、姉妹都市交流の一翼を担うこと。
②対象者	小学校教員・中学校教員
③受講予定者	1名

- ④実施期間 8月下旬～3月上旬
 ⑤内 容 現地小中高校に勤務、ホームステイ
 ⑥研修の評価方法 アンケート、外部検定受験、事後報告会

(9) 研修会名 スtockton市教員派遣研修 【教職員課】

- ①目 的 姉妹都市であるStockton市（米国）に教員を短期派遣し、英会話能力の向上を図るとともに、国際的視野を身に付けさせ教員の資質向上を図る。また、現地の社会との交流を図り、姉妹都市交流の一翼を担うこと。
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員
 ③受講予定者 1名
 ④実施期間 令和3年9月下旬～令和3年10月（隔年での実施）
 ⑤内 容 現地小中高校での訪問指導、ホームステイ
 ⑥研修の評価方法 アンケート、外部検定受験、事後報告会

(10) 研修会名 教科指導力向上研修（小学校外国語と中学校英語科）【教育センター】

- ①目 的 教科・領域別の授業の参観、事後研修を含めた授業研究を通して、教職員として授業改善及び教科指導力向上を図る
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員・高等学校教員
 ③受講予定者 300名
 ④開催回数 3区 小中各3回 計18回
 ⑤内 容 指導案検討、公開授業、協議会
 ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート

(11) 研修会名 小中一貫外国語・英語研修（近隣校要請訪問）【教育センター】

- ①目 的 同地区小・中学校の英語に係る教員が育てたい子供の姿のイメージを共有し、系統性を意識した外国語教育の授業改善を図る。
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員
 ③受講予定者 100名
 ④期 日 年2回程度
 ⑤内 容 （中学校区内外国語担当教員による）指導案検討、公開授業、研究協議
 ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート

(12) 研修会名 英語教育ICT活用研修（講話）【教育センター】

- ①目 的 子供のコミュニケーション力向上のために、外国語活動、小学校外国語科、中学校外国語科の授業で一人一台端末をどのように有効活用できるかを研修することで、授業改善に資する。
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員、高等学校教員
 ③受講予定者 20名
 ④期 日 令和3年9月
 ⑤内 容 講師による講義・演習
 ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート

(13) 研修会名 グローカルイングリッシュティーチャー（GET）研修会

【学校教育課・教育センター】

- ①目 的 地域人材GETの勤務や役割について明確にする。また学級や学校での支援のイメージを具体的にもつことで、外国語授業におけるより効果的な支援法や指導法を研修する。
 ②対 象 者 英語が堪能な地域人材（GET） 33名
 ③開催回数 年5回＋訪問指導

④内 容	講義・演習（役割、服務について、授業づくり、指導の在り方 など） 授業見学、公開授業参観、研究協議
⑤研修の評価方法	参加者によるアンケート
(14) 研修会名	グローバルイングリッシュティーチャー（GET）推進校研修会 【学校教育課・教育センター】
①目 的	小学校5、6年生の外国語科の授業において、GETを活用した授業実践研究を行い、全市に優れた活用事例を広める。
②対 象 者	小学校教員、英語が堪能な地域人材（GET）
③受講予定者	110名
④開 催 回 数	年4回＋訪問指導
⑤内 容	講義・演習 授業案検討、公開授業、研究協議、授業モデルづくり
⑥研修の評価方法	参加者によるアンケート
(15) 研修会名	ALT研修 【学校教育課】
①目 的	ALTの役割や勤務形態を理解し、小学校学級担任や中学校英語科教員とのスムーズな連携、授業での効果的なサポート法、パフォーマンステスト支援等について学ぶ。
②対 象 者	小中高ALT45名
③開 催 回 数	年6回＋着任時研修＋夏季研修
④内 容	講義・演習、グループ協議、相互参観研修、訪問指導、SDC研修への参加（JET-ALTのみ）
⑤研修の評価方法	アンケート調査（英語教育実施状況調査のALT活用についての項目）

(4) 年間事業計画

月	研修会等の取組	外部専門機関等
4月	GET研修①② GET推進校研修①	
5月	専科教員研修会① ALT研修① GET研修③ 英語教育ICT活用委員会① 教科指導力向上研修専門委員会（中）	
6月	GET・専科訪問指導 イングリッシュセミナー1-① 教科指導力向上研修専門委員会（小） 英語教育ICT活用委員会②	静岡大学
7月	イングリッシュセミナー1-② GET・専科訪問指導 ALT研修② 短期海外派遣事業 英語プロジェクト委員会 中学校授業づくり研修	海外派遣者
8月	イングリッシュキャンプ2日間 ALT夏季研修会 新規ALT研修	
9月	イングリッシュセミナー1-③ 英語発表会 外国語活動・小学校外国語科授業づくり研修 GET推進校研修②	静岡大学・常葉大学 文部科学省

	英語教育ICT活用委員会③ 教科指導力向上研修専門委員会（葵区小、駿河区小、清水区中）	静岡大学
10月	GET研修④ GET推進校研修② イングリッシュセミナー2-① 教科指導力向上研修専門委員会（清水区小、葵区中、駿河区中） ALT研修③ 教科指導力向上研修（葵区小、駿河区小、駿河区中、清水区中）	
11月	教科指導力向上研修（清水区小、葵区中） GET推進校研修③ 英語プロジェクト委員会 イングリッシュセミナー2-② ALT研修④ 専科教員研修会② 英語教育ICT活用委員会④ 教科指導力向上研修専門委員会（中）	静岡大学
12月	教科指導力向上研修専門委員会（小） イングリッシュセミナー2-③ GET研修⑤ GET推進校研修④公開授業 英語プロジェクト委員会	
1月	イングリッシュセミナー3-① 英語教育ICT活用研修（授業公開） ALT研修⑤	静岡大学
2月	イングリッシュセミナー3-② 英語教育ICT活用委員会⑤	
3月	イングリッシュセミナー3-③ ALT研修⑥	
【その他の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育ICT活用研修（講話） ・姉妹都市海外派遣（中高生） ・イングリッシュデイ（小中学校） ・英語キャンプ（小中学校） ・英語発表会（高等学校） ・英語スピーチコンテスト（高等学校） 		

静岡市教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		公表(%)	50%	50%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		達成状況の把握(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	②生徒の授業における英語による言語活	73%	83%	90%	94%	95%	95%	95%	95%	95%	
	③パフォーマンステストの実施状況										
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	5回	15回	3回	8回	5回	5回	5回	5回
			コミュニケーション英語Ⅱ	18回	6.5回	3回	6.5回	5回	5回	5回	5回
			コミュニケーション英語Ⅲ	8回	0回	3回	0回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅰ	7回	2回	3回	1回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅱ	0回	0回	3回	0回	5回	5回	5回	5回
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	6回	6回	3回	10.5回	5回	5回	5回	5回
			コミュニケーション英語Ⅱ	4.5回	5回	3回	1回	5回	5回	5回	5回
			コミュニケーション英語Ⅲ	9.5回	5回	3回	2回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅰ	7.5回	5回	3回	8回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅱ	2回	1.5回	3回	5回	5回	5回	5回	5回
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ								5回
			英語コミュニケーションⅡ								
			英語コミュニケーションⅢ								
			論理・表現Ⅰ								5回
			論理・表現Ⅱ								
○ライティングテスト(回)		英語コミュニケーションⅠ								5回	
		英語コミュニケーションⅡ									
		英語コミュニケーションⅢ									
		論理・表現Ⅰ								5回	
		論理・表現Ⅱ									
論理・表現Ⅲ											
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	82%	89%	100%	66%	100%	100%	100%	100%			
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	57%	81%	85%	73%	85%	100%	100%	100%			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	62%	65%	70%	82%	85%	95%	95%	95%			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
		公表(%)	10%	4.7%	20%	6.9%	20%	50%	100%	100%	
		達成状況の把握(%)	50%	86%	90%	88.3%	100%	100%	100%	100%	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	85%	85.7%	86%	79.4%	88%	90%	90%			
		3回	2.7回	3回	3.1回	3回	4回	4回			
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	1.6回	3回	2.3回	3回	4回	4回		
		ライティングテスト(回)	3回	1.6回	3回	2.3回	3回	4回	4回		
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75%	79.3%	80%	86.9%	87%	90%	95%				
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	30%	32.1%	35%	35.6%	38%	40%	42%				
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	46%	37%	47.3%	41.5%	48.6%	50%	50%以上				

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)					20%				
		公表(%)					20%				
		達成状況の把握(%)					100%				

独自 No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	① 外国語でコミュニケーションすることが楽しいと感じている児童の割合(%)【各区GET推進校(抽	80%	88%	89%	96%	96%	91%	96%以上	96%以上		